東海道中膝栗毛三編

下

へ13
4302
6

道中膝栗毛三編下

志のあまざけ経(へ)のいそがけよ。咲(さ)きにほふ軒(のき)の梅(うめ)

の馬の歩(あゆみ)は旅(たび)ごころ

小(こ)八(はち)まで出(で)て文(ふみ)をやる

新(あら)くらうしのもおうしく

峯(みね)の八幡(やはた)と手(て)を有(あ)よまうさん

ゾくるゝ雨(あめ)ぬば浜(はま)ぐりの

干(ひ)りしびし

へ13
4302
6

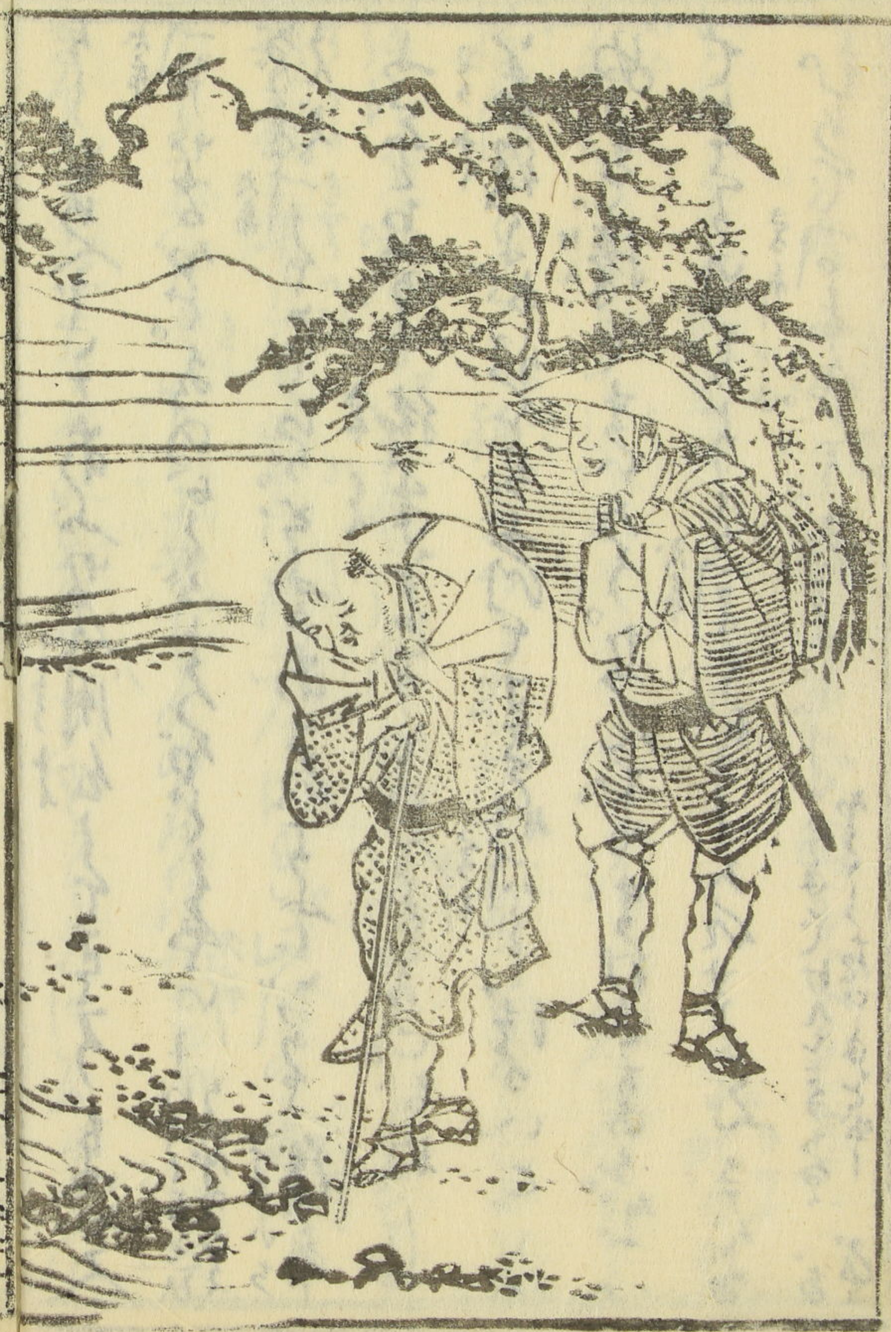
早稲田大学
教育学部図書

湯沢幸吉郎先生
寄贈図書

20517
<2000-242>

かくて燕山のよしみが因でとき
それより皺寄門はいらくわはいよりる昨今の
面体よくして擬者其れりけ人えがうら
殺月とそろ纐まくりあげて夜をまるまる。
須ぐかくいかくもいぎやりれて渡なんしきる
打揃ゑとまのちま殿二人は末し其門の定護り
片まるまくとまよりる虫や。まく山の在代一モミ門八ひぎ
きかもかでうすまとる「されまく志らしあがやれ

「うしあめへがさアおふせなん用意して見ろうなせん
「ハアなるほど。あのらくがよろしくもやい「いつそこれうけの御さん
あげえで「いやそてらぐ。どふぞあすふぎつらや猿楽
かみまとおがら締まとるもめんやうぎ。おねし
若殺にはおれとおが門てまられ「ゑらしはかいと
ぬうまと擂でまいろう。なんでもすげとあぶ。
てあるのうちようらフリやありしろれせやん
むかで「かあんとうさんくトさまでけんとうちあ
かちうたのまとかし



さんざきやれ。なんのあぶなさごともいとしふ衆
がたえんと出しましよ。ツイおれも川へとまゐろ
きのどくな。ぐつとくれで一着せうかいな
おまへ〳〵ゝあら胴のなき人とあなどらし
むかひハもや長き川のながれよ
小八
一声きてくも猿へ下りてくんなア。きまれくト糸する
がさくされながらきめともらず此間さまいがハ川をとまり恐る一どくそほしてもおられぬへ
から。そちぎくと出してきまれ。ここまでやらとくれそ
からつてあぶかうつ一声いまいしい風をひいた。パア
ウシヤミト　おつぐいくとぶきりのハもあて川さけ出かけるとおびあすくゆけ川の宿みゆろ
拝見の茶屋おんなへおめえよつあげりまアし。餘と
さんかくと。千太郎のおもそれのもおざりまアせ。
鯖のせんぶ煮もおざりまアをおやさとくなさん
まアし一ながかちくのうしへゆけバナア。かくゆじナアンエ。
ゆ川かゑるルナアンエはちてとサア。いれちやナア。ちねる
まくとちやンエヨウ。去川さらぞよごらくいまきへヒイン

ヨヤきさ八ごきの川へ
こゝ呑でけつうるハこの川いつてこがあるおいらこと
川へまめてきたら返してやろうト つうごえはそのさけとのんで
いるちやとうんでうるやかの女 おいでなさんまし ト
ぎうの日光へにこうけるまつ
く 後がぜんぽこなござ
稼つうほがこうなよう
さう夜なか。はてんしやく。

大市
こゝ元よ今の川へまめ
まつこうよこれよ
ついでひとりのこと
ちよくのさけとのんでおまい。ちよこと
でありこちよんとおれ
ちをくうやアがり財ぶ
おこぐもと出しおりこ
ぎうく。ふげてなる
の庚ぎうなこ

大市
ト ちうくはいそ
まつ
さう市
イヤよいやう
なの川
つまの川
ト ちうくはいそ
ちをけてそれろとかない
ぎうこと
あいうべぎ
でうくらのりんぢや
ない。

あつまへ。こんなに来ても。るてんくひまげと
して。おちのめさめりのんぶ。イヤ財ふ（さいふ）
（ホンニヨさる市）そのうトそとうおうとうトちくくとうあげてのまう。
そのトまくこのうぎ。ひとくちのんでもうよ。（大市）うりしてるあへ
さんまのおうぶまくかろ（さる市）まいつくおろうとうほうとうて。まぐまろ
ちよ。まごういてみろぐ。ちろのみをうがうをぐ。

トいてるぐ。さうがきをこうあけて（こる市）
形がまくさけいろまのもをしこれいぐみぶ（大市）
さういくちのなん（さる市）イヤまめ。そんなこてをういでひとうで
のむるトはんやくしとうぐみぶ。ちやのくちやりん（大市）コリや
さるまあけてぞうとうをのこころまく
（さる市）様よ。さうぐ死とまいさぬろーひうこうてそしをヤアこの
さろ市めひとうでらうてまやアぐこと（さる市）十九二
そんぐことそれでも（大市）（てうし）絶るがさろぞうざ（さる市）なんざ（めうし）
てうしぐるい。イヤその虫てもあめく。ほーらこと同

くあなどゝいつて。ざいんな腸中をさしめぐら。二合の酒が
さへ二ヶ日のむし。りよな所でござせんさかんど「ハイ
それハ二合。志うもらつが。済のであげましよう。
大きこころがしなきろこりんぶんで「十二文さてまん
ざ。商人は似合ねへことさしめぐらし酒代は
ひきせぬぞ。なきなぞちをさそろばとろくどくちはおぼえでゐる　みなりがさのぜんよりみえていへるし。が小八のきへまび
ざしとして「リアイ二度飲どんのさけゥ。それるあの人がちや
めうんへついで老まへつせらこ「まや　このほハさんごとを

らよ「コリヤア茶がし「トいゝながらのさしさ　ちやさんの酒とのんで老まよ「京四「イヤおまへ
さけをきいへそして数がおろくなつら老め川さん。大
きさあの京の酒とのまゝ老めてる「王この人も苦労
どよふなことでも猿へ日しが数のおゝくなあいさ
のハ茶を碎このぶ見しハう見るてでぢやと
えんどのむし碎ますを酒をようさくハふとわくが。
茶をよめ川さ御極をハちやだらうのふがくせで
ねつぬのことでちやだらうながしござるもちやよ。

手ヤハく〽(喜之市)イヤそのてハくハぬ。子左ハ正直(しやうじき)で。コリヤア
こんな喜市がよこどりしてのんだらまちがひハない。酒
代をもらひしやれ〽(和八)ちやれやれ。ちやうしとハちやうどよい
もないことを。ちやがらし喜市る。ちやうちやうのんどい
ちやどうり。ちやとうしものちやけとちやくぶく
しさおかへハごちやうねりるれちやねぶ チヤハく〽(太市)イヤ
(これ)是ハ目の見へぬものでおりいて。そのちやうらおろ
喜市れ。ハア見てぬさ子どもが御免(しやてめん)人どもが〽(喜之市)すこし怪
みゝとハ。座てハ喜市あの衆(のか)の毒でちやあんが。さけく
されらやいで見ん喜市れト ちごろぬ茶へ水をつけられ和八ちやうとちやうんとうくそふらしきくこなつい
喜市ひやうとうくれで見て〽ヒヤア うまくしてそして酒でゐちやくさる。
コリヤハイ。おまいちがのまま喜市つるさちがひハないは酒
代とおかへしなれまし トいりまそみてこハこらつ入おさまるやとおもひ〽イヤちやけ
ハのまねらし。ちやら代ハねハねえ茶代ならなんぼ
でもなららとふいくらぶ〽(喜之市)そんならく茶代とおかし喜や
ねまし茶が二合で六十四文〽(和八)ヤなんぞ。ちやと二

合のんだごとうも強く（注一）
まつこだ。ゑめのさる
まう強へ市。さのあるふうちゃうさま
トめうそもろ〳〵もろ〳〵（注八もやう）
う。六十四文もつて（注九）イキやうんざんさ。
大うさんまいおぶさうこんであろう。
人のうこほをよこだうし
ちうしうすものこ（注十二）ろ
トうさこうう（注一）
注一ちりめ ハテこのちぶるいもう。ゆんしして

ふんなせへ。こりゃ六まる酔ろてゐるが
やせ衆。サア ちゃんとくいうよ。アーおちゆうバンートいまそくきそハちを
ありようひるそこらを三五へ上へいまいしん。乃ふハきんざ写が
あーだやよゆーかくをする。
るん。銭を出して酒とのこまさるこ
がうまう銭へ一ー（通）おれようのよう。ちゃの袖へ男ざ
とるこもなこともこうあくばや
ちやよおろれ人のちがなさ
私（わく）真ーおるうひっぺ。やが（あき）新こまこへ（ばへ）の

ゐうなよいう。銭をくれ（ときざ）銭なの武人へ（ろう）重（もの）て
三尺（さぶ）ぢうの指（ろ）をよう。銭をくれ（ときざ）銭なの武人へ重（ろう）て
そのより江田（さぶ）細田（ほそぶ）を赤をだ。砂川（まるぶ）の坂（ろ）をよかう
り野（ぐ）よ。あろうより来（こざ）之生（おひーげ）茂りて日の暮（ぐ）ろ。
おろーゆきもそざ人（ろう）重（もの）て猪（ろ）もおろ。
よびの人ヨくートよびみ（ろうこ）もおろ。
ろーき男。

孫二「コリヤ今日ハ中々なかんの用だ」うの男「イヤさうでござる
又下さんすまへ「なかんのこれそれでおちつい
ぽツと主文「おれもう行をつぶさせやアがつていま
くじれた合めぐ トつがれたがら宗川で其さ見たなれも なそのさぞやさまつくてハとぼさを知ておきるの
庭だるまひらくさくらの枝なしで
三なめいしまされる時 せづさし
くをはなく代参の宿ま入るま。安御の茶屋縁しく
神奈の旅人あのく湯のて舎ろうなししてぬさ

入れるをほうしき常見て
ころかまで ゆきての後やふられん
されバ布袋のふくろ井の茶屋
此志るくをみより。よしあのし見て。楼家の
布子ふ頭ごしらの額そくとさし。此宅所の
志やくだけし合羽をきする男が何ひとつれ
イぷとみなりさ別くなり「モシおきんがくいお
孫二 尤どやる「さ…き「此しも毎年くぐる

くものじゃが。おそでいきよんもんくじゃうるさ
まものゝ。アゝきよくてもちよこくさとうれて。ちうちん
ゆうべちやまさ愛くるしぶ。うつも人よふれまりれて
ゆくさうん。なんがうつまう。おもちやもろうんが。
おきらぐこも。さぐめそ笑たなきもあろんが。
ありやうちんがほぐりるでん引つもかうい
でん。地面のそうかゝ指ゝかなにさものぐぶ二
そこぐらんでうぐうるそ。ニアひうのちうさん

やうこアそなりでまそのぐ試生。美金が生方う。
ぎんそ小べ。そのぜが試自でかうるぶんのこさニハテン
ヨーも大人世ハきよくへりぐ。そうろうきんと
りのハ。なんのこりちやいる二リキア汚て手着一行
なぐぐ。内のぬがのあめうろうろ
よせるてくさニハアヨーしぐうらう内でへそみいなとハ
なんてヨみ合。そしそなふものあ枚汚ハ出一や

せんとのの。そらよりもけでおつてこいる（注二）十二
そやをやァのある泊でかものめ狩人（かりうど）らがでぬよ
するが。あごうよの（きり）女房（にょうぼ）（上方）そーてよこうでへこう
ろ（ろう）信（しん）てぐるぐ。おをでぐ（注二）十二 おをこそ〜ぬ（ぬま）とけれそ
さへとそをやァいこうでも代（かわ）りてよこーやを（上方）
こやおまくいぬ。大きやのおきまく〜じやないとのの。その
つきこうをやらの（注二）十二 ぬまとう（ぬま）とこそ〜ぬまとう（ぬま）とこそ〜できのてぬまとう（ぬま）とこそ
そんるこそ。おをやせんぬ（注二）るくそさ。ぬんよ
ぬまとうァ。扉（とびら）よにうこうの階（きざはし）のでまてでやぐ（うぐ）かよりこうのぐ。十二 袴（はかま）へをいくやーゆう（上方）ハァをんるこう
おまいのおなぐこそ（注二）ハァイ大（おお）きやさ
（上方）大きやの猫（ねこ）じやらる（注二）ハァイ大（おお）きやさ
おう（まう）袴（はかま）をぐやをいる。大きやをんるおをまい
なのんもせぬりの。コリヤおまい。そんとゆくこんじやりく

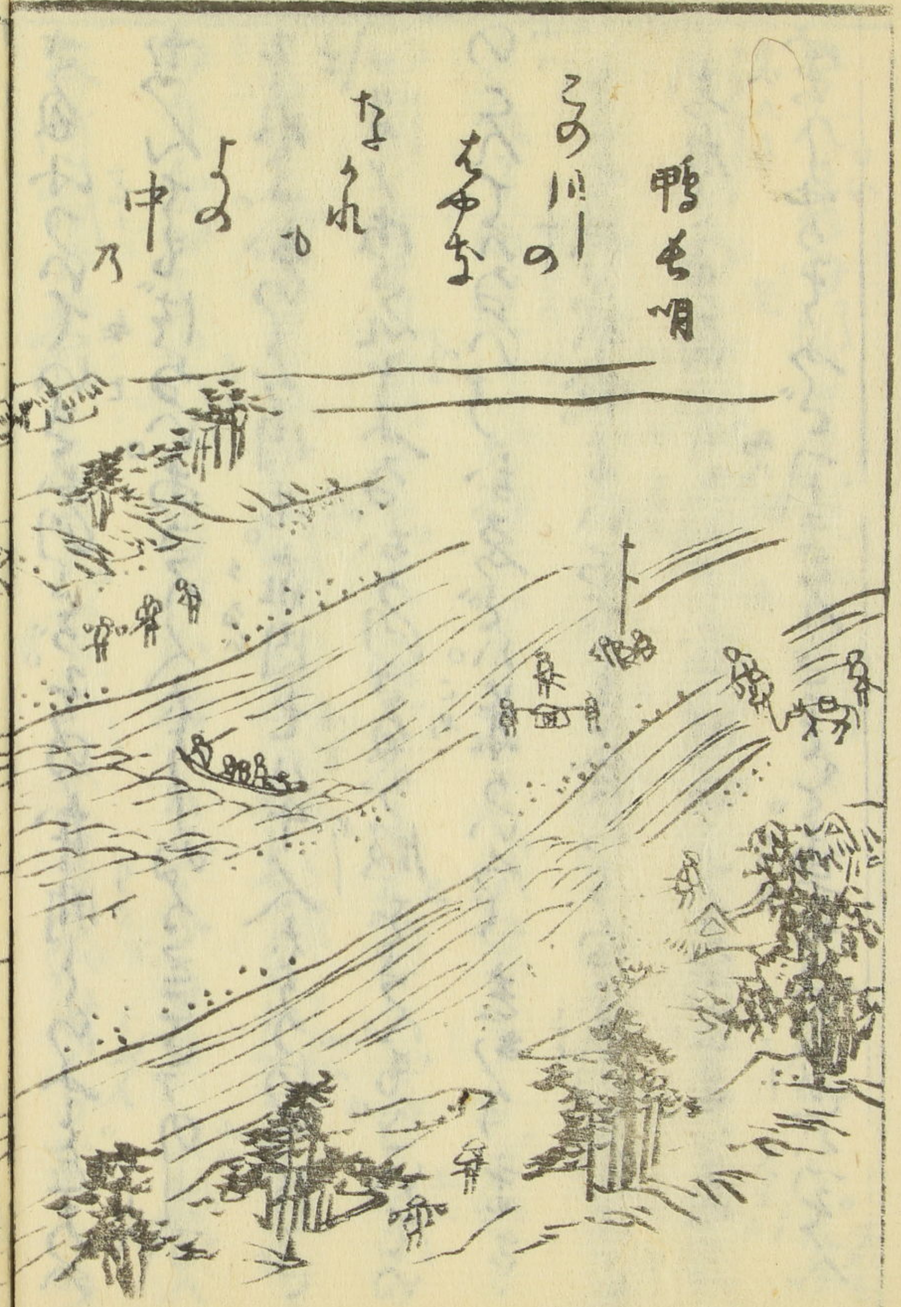
延二「ハテあそこらもありやすまい。ナアきさ八 次八「ヘエさらばすて
くら。ごまかしで安くするのやア。延「これえんおめへきらふ
ちやうぜ。女郎（ぢよろう）買（かひ）にかかつてもなくて人の噂（うはさ）
をきいてうちがかりで出かけるのはむだのりがあるハ。
金（かね）のはなしよごれずになつちやあがんめ。あれば人で
いろ狂（くる）ひのあたまもツレ。手前（てめへ）を引ぶつけぬといふさ
どうでア狂（くる）ひ 次八「あの大屋さんのおむすひの時か。
へ 引ぶはれたもききはしれなるほど武家（ぶけ）の
はじめとおぶきさうる座のさんやでむすぶ
このあとでからけでのんだ時の銭（ぜに）へえるおいらが
あづけておいらがそとはくぜ 次八「それをまりんきう。
どうもそのとおりおめへさんまの背（せな）と胴（どう）へさして。
頭（かしら）をあらいざい丸呑（まるのみ）にさくじやア狂（くる）ひか 延二「ぞらア
いへぬが国までおまぎけとくつて。ちちと
やけどしたてア 次八「いまで 延二「それよりおめへ
さんでいつ紙入（かみいれ）がおちてあるしたのくをとは

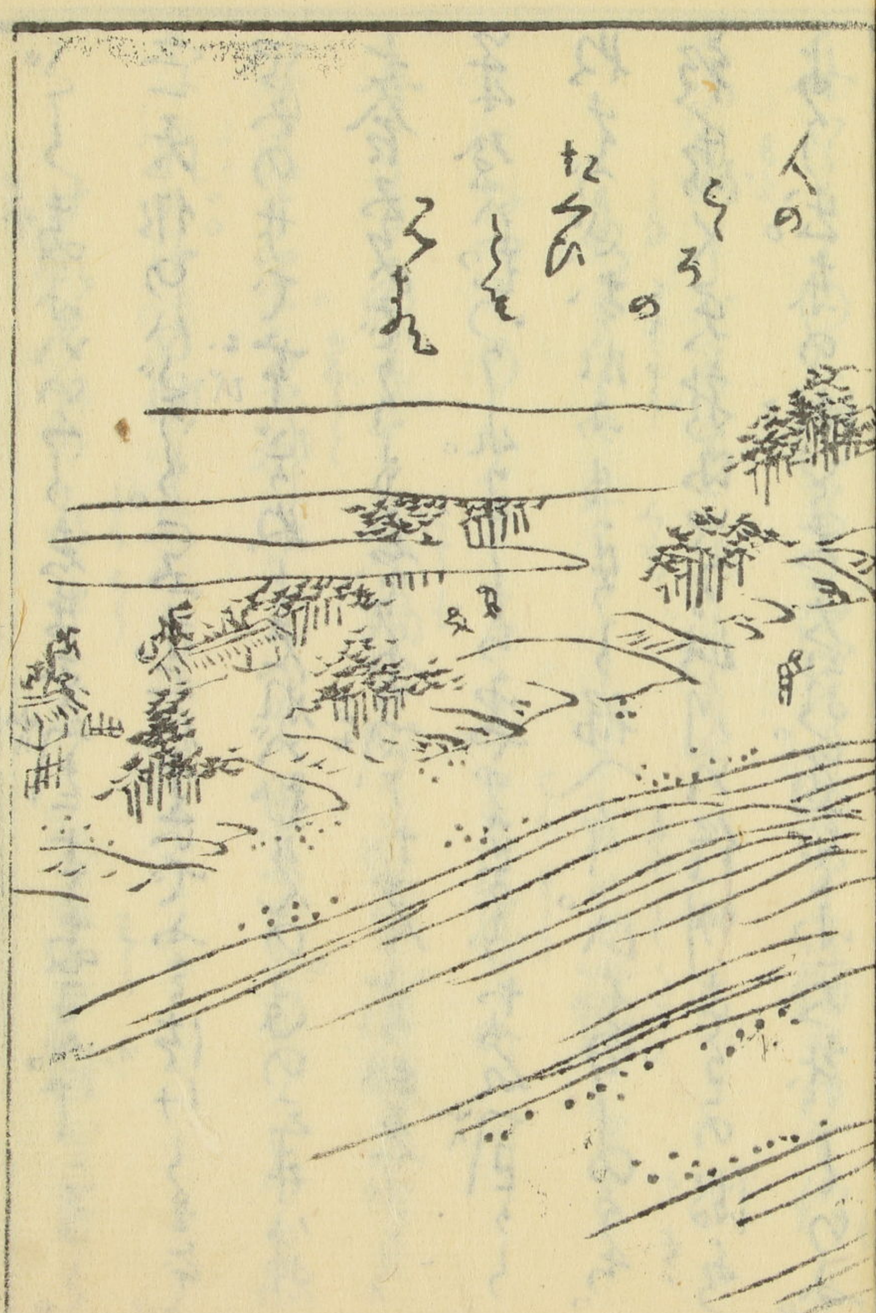
うんごやア私ども。業さ
ぐらし。そんとゆくらるる
なでもおくでも。うち
はべくべくまごぐらやら
ちゃんど。ドレおさ死人
ゆきる いまくいうねらよ
とのそるーのちみのもーとそ
大ごぢの坂とそんしまもれ存の家
でものろう、まいちお。

やとそくいうどいサアのつまり
妻くん奈ぶんトるのそ
コレ馬牛ごんるよ奈ぶへ
アイそろうら見へおがうと
おざるへ下るへそそ取う
ひょうちゃのやうへまがるかいるゆて
奈もも川もとそうう高坂さのね
やっくいぶ川のまんぢうかとゆうまく

きへまるりゝうでもござるまゝ今
彩国のあんねんがでゝふいうことをかに
よこさうのおんだあごんまりてんきんをある
さるよ病院さがあるかうあそびなごうあさい
いけてよう一ぱくく。又このごろまあごいどう一ぱ
るいちがるるどもんなるでおござうへ一ぱさうで
のう公がよの一ぱうんなァおござのよ一ぱどん
本町一ぱ行いとごァ。一ぱらも若い時らおゝの

きるふついていきおのくぶ。その本所とらみところへ
おんでもばるいおきえくんなうへぬることごァの一ぱ
それよ。おゝくぶ肉も。ろうの肉七分牛人なうのうじざ
一ぱりゃア市さんそよる。おうのさ服をくも。こいてへ
のこんでいるへァおござぶ。一ぱ七寺拝参合。よいまうへ。こゝ
一ぱ寺拝参合。よいまでゝ一ぱさる百ゆくこ一ぱ女
実しゆかそぶ一ぱ十二えんごとを。車で実也一ぱを人


鴨も明
この川の
なかれ
よの中


人の
こころの
ねがひ
こそ

ごう あふいこう ちまた 州 十二 ちまた ようア こう と。
三一天仰のハごう。二五十。二八十さいでおこたけらまで。
ひえの サで 学ごう ねむ 及 れべむりんのうものこ斗八抹
七合ちのだうも ちう 士 ハア な人ごうおろでう
茶なハむつうれつ。ら要アのようちなん 弁 ようう
ねそぐ。おねおもちう 祢へ 山 ちゃのうち。
称ちく天称ふいうる此川不作州をその湖ち
よう出。東の 北 と大天称。 要 と小天称という。

奈良ゃーの大河な。 泊 ちゃ 栄ま 待 うけて 行 ま
この海 里 とうもこゆ
あ 里 ようを手 ようう 出 て 鎖 るで
なこのさいうまく天称の川
奈ようあげて 乗 船 の 所 まいる。 山 茶ハ行ア
も二千里。 多 郡 へも千里あて。ふう ちの 和
なれば。中の所 ら へるよう
けれ ひえの 乗 中 なうで 日 茶 難 がけ

そうかんだ。せ事ばかりしてゐる訳にゆかねへ。あるそばから女のいゝのがあるとおつしやるから、おざうまを二ツ取もくにせるといゝ。せめて二ツ三ツ位ゐ。それでもおげませんとおつしやるから、おげませうといふ。

おやアあるめへ。ありやアおれをだますのだ。なんでもいゝからおまへ二ツ三ツとつてくんなせへ。あゝ今夜からくるくるとおもひだしてゐるうち、日もおちてそろ〳〵客人がくるはづだ。時もよいからまいりませう。

のれんをくゞるとあねさんが

さあ〳〵とおゆむけなされて 玄関

ふきたけしきの風

さんねをうさんとやァ入ぶ。財ふ八。湯へ
ざふぶ（ささ八ふろ）あぐ「ア」い湯〜。あくまう（あのくて）髪が
まな多ふ」のよふこふろ〜。
トうてぜんも出ふ〜おれ女子（ねこ）「ハイ」ばせんをおげませう
やぞぜんおふこ。ふ子ゆふれ入てきまし（ねこ）「ハイ」あくまさんやう
うてくんな。イヤ財ふ今。ゆ（ゆ）のから足ぶ。その内
のくさねうち〜ぬが。病（びやう）へ入（ね）てうりこごーして
おるが。ふろ〜うめくふ（まくら）ら麦（むぎ）ろ
でもぶ（人事）へ（まくら）「イヤ」きて

ふあさん。今うま移人ぶりうたうまさへ（昨うてのくさまさ）
しさのふーして面ろべんもどまる「ソレ」おれさいあ（あそま）
下女でおざろ〜ぐ。はていちやぐ（ちやぐ）ま
ことを。くさねがひぐんやさでおの女と
ぶ「ハイ」うそうそいうして。そうぐさうけ出ーありほし
こがそろ〜はてんーもいふ夜（晩）ぐでをれろう。ふ九ま
かこりておきおりまーことを。あ（ま）をぜ（ま）ーうさねがや
まーくろうて。そうぐさぐちぐひ。着（ね）をくうて死ぬや

アまーさぞ人をろく怙てこいーもハ又よいそふーて。
あの女をうちへのめろくそ晩えうろうそ夕のゆー
まんぢうこんはいて。あの女ぐうへ
ぐひよろろこりんぢんてそれ
ぢん。をくうおうまを（ひそ）
（ハヽ）なんぢ幽（ゆう）霊（れい）ぢろ怙いこと。そのうちへそのう
きいぢ出るうの（あれは）歩るぢんうそをはくぜ（ま）うそ
おぢアおざーねまいだんこの屋根のうへまでろい
ものぢーこりてあるのをとうりのがおざうまを（ハヽ）
コリヤえんぢ亜（ま）こと合やうそ
らびをろつこ時の都合（ぐあひ）よ
くりくあいて（あと）まを洗（だら）をこしを
て。それ少くのきそのようこ
ぢこで（あれは）もうレ、おまへの
（ハヽ）ヤアコリヤたまらぬ。ぢようらびを
ようぢ（河二）おめくまくまよくしこへ

なさけないこんやはごくらくときやアかねへさ
小八「イヤコレあんまどの。おけへつて下さい　孫二「アゝヨ
き孫のおとゝでいちないきがひきいれるよふだ
小八「はんまアてもいまくしい座とらせ「早て経ニ嬌
るお麁ごつく「かし八まちへ。小八はござ　小八「おしァ
りよ孫よよ「さかりく出きげんよく　トあんまは
しとうゆく此内女郎衆をめち出ごてきくもいくふくらよめて
いつよるいさそれをもひきわりぞこゑぞまいふも孫いくもいふむ
孫二「早ていつそのし。小八今からもとうじやア孫今「小八「十二
きんごとをとりよ今のそるにでざう故たかある
られくりんぶ二孫二「それるての内へなんざらぞてびく
いなりるで。人りまくなれくう。ちまりのまるい、
うちてきて　トめむろりおぐちくしてうとねづみが「チウ「小八「早て
てんしやくとらけろおくかちくし
鼠までがむろふしやアがつて小便とさうけさ
孫二「その孫までがきうく山しれ。おしァさりきらぽ小
ぞんどをおさくてもとつてわるは。セア　なかんぞ
やるてるのが。おしはさいつさ小八「なんぞく　ねこ「ニヤアン

[泳二]コノちくしょうめ。シュウ〳〵[泳二]百まんべんの[泳二]あと[泳二]のさよおちる[泳二]あまつゆ[泳二]
[泳二]ぉ。そうそう[泳二]あつもあつしみをそうやるまの[泳二]ちを
やアルチャンチャン[泳二]きょうもあつくてのどがかわいて[泳二]
[泳二]ひさんまごころをこめてるうえ[泳二]ものごとく。？時よ
[泳二]とまれとてとうまっ。[泳二]人[泳二]
[泳一]ぐらいまんざらでもあってなるほどおかしさ
[泳二]りっちゃんとあとそうこまで
[泳二]ついトやうくらをよこめ[泳二]
[泳二]くまめんさきへ[泳二]なおが出[泳二]りんぶっトあまとととさまこころがまるふい
[泳二]のまとなる。まろのものがちうとよ[泳二]けさこころがまるふい
[泳二]おりくにハきまろとうてこをれう[泳二]
[泳二]あれを見給へ[泳二]あれを[泳二]
[泳二]そうそ。こーかうトがえへぬ[泳二]ドレ〳〵[泳二]
[泳二]あまぢのそとをそとのそをえ。これもとうくるあのあへかえさ〳〵ねる。
[泳二]きまろとうてざきえちとこをれう[泳二]
[泳二]ライ。[泳二]ぜさ〳〵[泳二]ぜとおろ[泳二]
[泳二]ライ。[泳二]ぜさんヤアイトこれ[泳二]コリヤ[泳二]ぜさんぞよー[泳二]さ
[泳二]ぜさ〳〵まきよおうまうてのしゃうで。
[泳二]ぜさ〳〵まきサれバ[泳二]ドレマでよるさのそいとえそよるべらのをしまよ〳〵
[泳二]ひ〳〵ぉ。[泳二]ぉそこよるなふう[泳二]ーや[泳二]せうべん。
[泳二]ひ〳〵ぉ。[泳二]ぉそこよるなふう。[泳二]ろいのがいこと。それ

でこのとうり。おくびゅうな人さ（ひとさま）出こぶとアて（でこぶとアて）一イヤ
あれへ結体（どたん）でおざろうまま。コリヤ〳〵おさうんやいく
日がこれさよ。やもとうりのをなぜそうこまさね。
そしてさうきうう。あめ（あめ）ながろうついてきさらろー
くちもあるなどもじ。あきのどくさな
でおざうまま（ござります）。ころちゃア。ころんとうふことア
まう（まう）経（へ）たものぶ。なぜう今（いま）なん虫（むし）の居（い）どころが
まうろうこと（まうろうこと）ある（ござります）ー。おやまさるさんまりー。（ゆく）

（ござります）いまー。大きさもとひ（ひと）さー（ひとさま）
名（な）んさ（なんさま）出（で）て（て）お（お）ぶ（ぶ）なるやど女（おんな）
おうよも（おうよも）ふ（ふ）有（あ）そうてござります（ござります）
ゆうまんまー。おりひの糸（いと）よせんぞくの
お面（めん）だんの乃（の）重（じゅう）ことくおぶんこ
をでめて（ほめて）ひを催（もよお）しー。ふちの外（そと）でろく
ー。さんの妻（つま）をむさぼよ。おどろくやこふの話（はなし）
のこと（のこと）毎（まい）ようこひ（ひと）さま生（う）の
るのさでのおー。シャこまの（ござります）ぜんよござりべ

ナア　うらからうどぎれよヲ。おりてくろくをで。おくらさ
るよヲ　ヒリ（る）　ヒイン〳〵（うまがなくおと）　コトヒヒ（ヒヒン）　ヒヒ（ヒヒン）まで
あけてそふ〳〵（小八もものおきに出ばやぞうりくろう。せスもりざ
物（むかし）千の生（いき）の中（なか）にくらさうよ
まりくせさまへ　艘（ふね）のよるまで
彩（さい）てヨろお申（もう）のをとうちまで
あて（小八）ヲヤ味（うま）そうなおでんくろうちまで（夢（ゆめ）のうち）
ひくろうんろ。トふるがらこめちぐあるラットでもおさん。
ぎうちまんでぐろうヤア　そのへんへ（夜（よ）の）

ソリヤアおとものかんだ
までこゝらへんでおざるへ
つもんせまを一十三三ッだう
引イく。拙さんく一句くれろ
こぞうぎようめへ一ドヒトヤそれろ
らうどもトまのひくくのせてさーおぢと
とそらのきをへる下戸ざるる
まらにあをがれもせそのうへま

そうをおもせ
かどるく茎屋。はだ丹
あれる。是ようあら奉
合ぶのようちのろこそ
さんじの私中おりしくの
合。笑ひのもろお身の
こそうそ。ふ合の人〳〵
都ぐうる射とうげて。

又この風(ふう)まで見(み)てゐるうちに、だんだん路(みち)筋(すじ)もわかつて
この茶屋(ちやや)のうちより、下(した)のところまで、
いくつもおなじきうなめどをきさうがあるが、
人(ひと)どのひざのところをさげて、又(また)くぐりもあるよふにして、
そのほとに(注二)コウ きたうなへちやんどが、
をさげてなんどもとろ(注三)イ 出(だ)ゆるさぬまで。ヨーヘ(注四)ハア
ちよこざいなどゝなくなしごとりのがござるうち(注五)おめ人なく
なめくさりのがあるうち。そこを見てさうぢ稼(かせ)ぐうち。
ゐ稼のゆでござるもゆく。そこをそれ。なんざなどと

入(いり)きせうう(注一)イン手(て)をそんなうちに(注二)ヲ綾(あや)うかなうち(注三)イ三ヤ
ござるうち(注四)ふうのはござるよふなのちやうに人のい稼あふと
してゐるうち。そこをアさぐり
(注五)ヲ おふがなをとこアなくなつたのが
でいをまぬけ(注六)イニヤうのよふに
稼へ(注七)ヨ よふ見えません(注八)ハア
なびやうに(注九)ハア 出(だ)ゐをするうちまをだいぶん
おめ人がものと

小二「なふしたつて。それがびつくりするものか「おふが見へやせん。親父(おやぢ) アイ 蛇(へび)が一疋(ひき)なくなりやした「小か ヤアく そんならそうかへ。ぶへびさァなんの気びぶ「おやぢ なんのぶべれよつて。いまさ蛇(へび)でどぎろハ「のろ舎 ヤアく「頭二 イヤまたさねも。そんざりのとりつてきて。へびと言 おせんは志よふしおかりて「小八 ヤアとの何事の見るれこてらふへいぬら。ト へちさかげバせんちう まへ そうふろみちちさまき「ヤアとの枝子(さとど)の下ふ。さがろとまれてぬかハ。リヤ それちのおかうへいつさ。

呂とやきやきてこの見るれこしくあけ茶の志らてへそれひさんぶへ。コリヤ まおぶ。それぶ人その人あえしとせんちうよちどやへひろくりえしちちさせてくらのおやぢ「小八 コレく わけまとろのけへひとおんの気もさてつらぬところへいれおめへとんぶことをまるぞ。それをとふところへいれておくし。又そひ出来またへ。うえへうつちゅつてまるまひおかせへ「おやぢ イヤこりヤさて。そふいハおりやさね。見しへ ハア きぬきのさんびつさるへいくりんぞ。屋中(くせん) まつきて。まんべれよふがどぎうなんらく。屋でこの

をびとうとうとさんざんにをびつうひなかいて。
きそくやうやくいくらかんざうこりやア[旦]ぐ。寿う
ぎんのうでぎざうハ[仁]アヤなへんが。きさうぎ寿う
おみのうでぐとりつてねる[人]こぐふ
しそうきよねんうきるりのざ。コレ毎[所]ぐんなぜ
ませぬ[二]おやぢどんなのうのといきぎとも。夜

せんまおせんぐ。そやくうハちうて。まいま
せん[仁]やアぶ。なうさね[ハ]ざアきさ夜
ぐるめよう[三]ぶちこんでまるうぐ[ヲサ]
それるなうそめて見さ[ハ]ーみもぶ[ぶ]
ぐぢぐろハ[ハ]このおやぢ[ト]ハさちのう
おやぢのむるぐとろし。ふこころうへびのわうぶかふこころう
出ぎこハきうこうついてえわぐきるまて
おやぢとひようくハせる。おやぢそつくしぜんちうまう
ろうきつるうちぐらのへびぐ。おやぢのうそとうまうし
[ハ]ーまあと出あろこぶ。
おちころせく[小八ぢうんのことぶ]
ぎーのことやそ

ちやうしへびのあたまをおさへるやいなやそのまゝさやにおさまりつきたると
ちよいとうたへるかくりなげり そつてまくれかきそへりてらんおしもいつ
しよはやうたへくちとくなりはやびんなこゝろまかされてかんそふしこう見さをしへ
うけうたひゆくうちそなかれりきさ八めんがゝなくしよけてらる良へおやぢ
これまでもろこしのり合こゝなく「アヽこれでおちついたしかしおきの
ぞくなこしやおなじのおこしのかりかご「親父(おやぢ)しへ
このしよはあるがごきさしのながれかのごとんじ
めてかんやこ「尺八(しやくはち)けりつのあるのせめこゝとりふ
おやぢめご。おうしろのところも川で弁慶(べんけい)かこち
おうじやしさときやア。さし(さた)がもようひも。ながれさ
しうかことぶ「親父(おやぢ)しこゝやアハア。よころたるが
ひとくなうりやきいや。おかまし様(さう)よいふなかところ
も川。さいづちをもりながれをよらふ今があり
りかさを。弁(べん)けいのさしておいやうさこしのかの。
まで こしらへさかんざらる。ながれぞんとさアござ
んなあるへ「尺八(しやくはち)いこませておきやア。よくまあなさ
まあゆだをとらいめご。そりこそびしてやろう ト奴だし
つうくりうと亦ろおしやめ「かやきさ八ら能てふしや。のり合のあうの

多まへもある。まづまれく（ちんどう）ナアリ〳〵お　雲雨（きうう）まへでござる。ひざをそろへまして。ソレく身があるまゝそろでござる。（のり合）ソレ〳〵ござるかをとり〳〵（袖をあげお受取をする体）弟（おと）子（こ）をのり出し〳〵（いま切）

まづてくひもも（ぜんざい）あり井おそばてく

きるあても。猿のりのなが（おかめ）れるかお代おち

のさ（ま）なのう（ま）称（ま）こぶ〳〵井多ひつ〳〵小八

作（ま）菊比をとて〳〵きまひし〳〵男ぶり

おく〳〵法ふーとふ

それようふうはゞあり井の右くる胡ら

かりてあ〳〵とやとをん收

道中膝栗毛三編　本石根堂町壱丁目

紙屋利助